

平成 30 年度イノベーション戦略策定事業の成果概要

－ IT を活用したブドウ産業高度化に関する戦略策定 －

平成 31 年 4 月

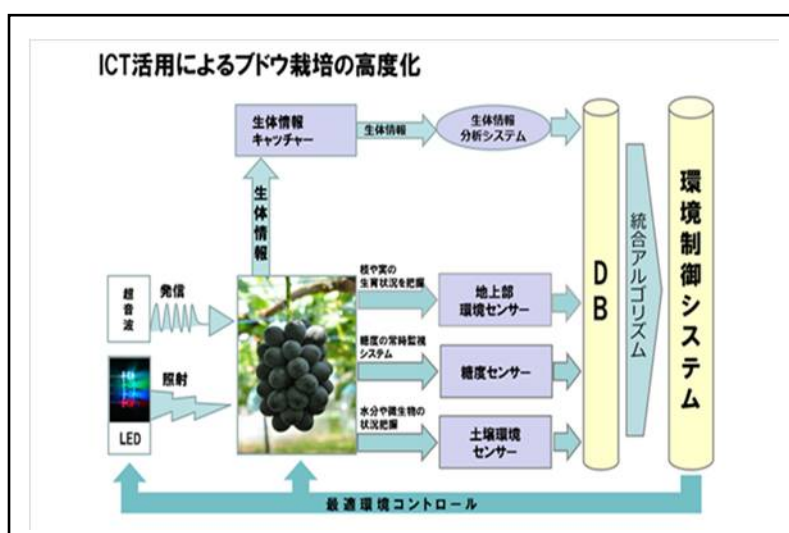
(一財) 機械システム振興協会

平成 30 年度イノベーション戦略策定事業の 6 テーマの 1 つとして、(一社) コンピュータソフトウェア協会に委託して、「IT を活用したブドウ産業高度化に関する戦略策定事業」を、次の通り実施しました。

【事業の目的】

現在、IT 化によって農業の高付加価値化、労働生産性向上、若手従事者の参入を図るために、全国各地で研究ネットワークが構築されています。ブドウ産業についても同様で、各地で栽培者、加工業者、研究者、IT 事業者が参加して、栽培データ等が取得されております。

しかし、データフォーマットなどがマチマチで、データを共有化して栽培の研究に活かす上で支障が生じています。このため、データフォーマットの統一などを通じて、データ連携・共有・利用を進め、IT 事業者の農業分野への参入を促進します。



【30 年度事業の概要と主要成果】

コンピュータソフトウェア協会に、戦略策定委員会及び標準モデル作成 WG を設置し、学識経験者、ブドウ生産者(塩尻、足利、山形の篤農家)、IT 事業者、加工業者、公的試験場などが参加して、ブドウ産業における標準データフォーマットの作成、その有効性検証実験などを行うとともに、それを活用したビジネスモデルを含むデータ活用戦略を策定しました。その主要な成果は次の通りです。

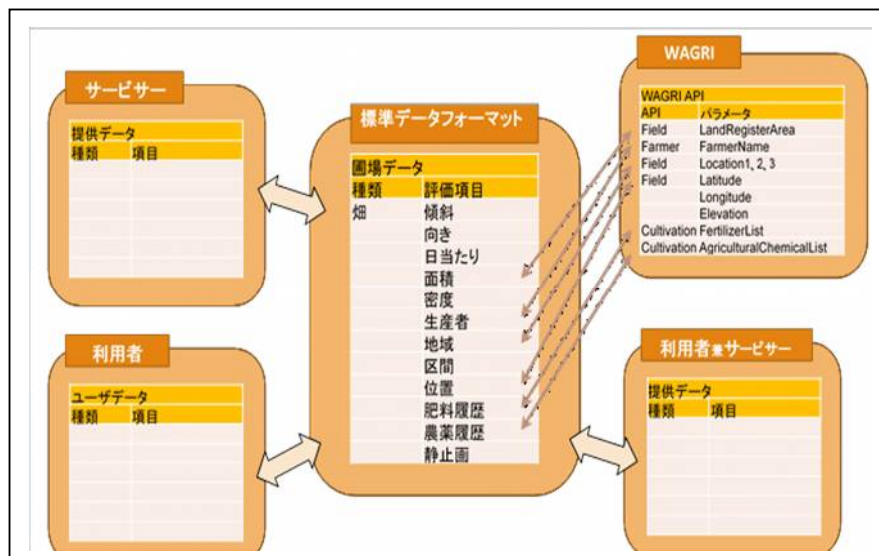
①標準データフォーマットの作成

ブドウ産業(ブドウ育成、ワイン醸造、流通など)に関する環境・栽培育成データ、生産者・圃場データ、醸造者など加工業者向けデータ、流通・販売事業者向けデータ、消費者向けデータの標準的なデータフォーマットを作成しました。作成に際しては、コンピュータソフトウェア協会の会員企業のみならず、塩尻市、山梨大学などの意見を聞いています。これを用いることで、個々の事業者のデータフォーマットが異なっても、データ交換が「多対多」から「多対1」になり、データ連携における負担が大幅に削減され、

効率的にデータ授受を行うことができます。

この標準データフォーマットの有効性については、実際の圃場で得られるセンサからの取得データを用いた有効性検証実験で確認しました。

また、IT サービス利用者との関係においてデータフォーマットを用いるデータ連携・共有・提供の標準モデル（右図参照）を作成しました。



②ビジネスモデル及びデータ活用戦略の策定

ユーザニーズ調査を行い、標準データフォーマットの妥当性を確認するとともに、IT 事業者などの情報サービスの運営主体・運営チームが、農家、農業団体、ワイン生産者、流通業者、レストランなどの関係事業者にデータを提供するビジネスモデルを作成しました。これらの事業者のニーズに合うようにデータを提供することでブドウ産業の高度化が図られるとともに、IT 企業のビジネスとなります。これをデータ活用戦略として取りまとめました。

【今後の展開】

コンピュータソフトウェア協会では、その中の農業 ICT 研究会を中心に、成果報告会を兼ねたセミナーなどにより、本事業で開発した標準データフォーマットの普及を図ることとしております。また、同協会では、関係自治体や大学、公的研究機関に働きかけて、標準データフォーマットのデファクトスタンダード化を目指すこととしております。

【問い合わせ先】

イノベーション戦略策定事業全般：（一財）機械システム振興協会 Tel: 03-6848-5036

本調査開発の詳細：（一社）コンピュータソフトウェア協会 Tel: 03-3560-8440